

国土交通省北海道局・北海道開発局
ひがし北海道価値創造パートナーシップ会議
～ 新たな北海道総合開発計画の推進に向けて ～

第Ⅱ部 「世界のひがし北海道2050」



平成28年4月27日(水)

十勝バス株式会社

代表取締役社長 野村 文吾

1. ひがし北海道における 連携と対流の 現状と課題

ひがし北海道の高速交通体系 「ネットワーク化」の現状とさらなる整備



公共交通の見える化 路線バスの商品化「日帰り路線バスパック」

路線上の施設＋路線バス

お互いの強みを
組合せた企画商品

生活交通と観光交通の
一体化により
生活交通を支える

利用者数の推移
2010年度：1,500名
2011年度：2,500名
2012年度：3,500名
2013年度：4,300名



公共交通のITによる見える化 乗換案内アプリ「もくいく&バスロケ」

時刻表・路線図
運賃等データ提供・確認

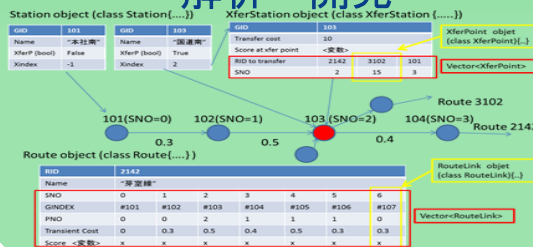


バス会社独自のノウハウ投入
利用者目線のシステムコンサル

システム設計・確認
コンサルテーション



経路探索アルゴリズム
解析・開発



設計・開発・クラウド
環境提供

クラウドシステム
低コスト運用
柔軟性・データ蓄積



ひがし北海道における 二次交通の連携による見える化



主要ゲートウェイ施設

交通の見える化、Wi-Fi



※東北北海道の全ての路線バス会社に『もいくいく&バスロケ』導入決定！

北海道広域観光
周遊ルート
「アジアの宝 悠久の
自然美への道
ひがし北・海・道」

※シーニックバイウェイ
等 観光コンテンツとの
連携

観光コンテンツとの連携 スマホでの情報収集



ひがし北海道に向けて 一次交通と二次交通の連携が必要

交通の見える化、Wi-Fi



広域観光拠点地区
主要広域観光ルート
広域観光促進地域



主要ゲートウェイ施設

※東北海道の全ての路線バス会社に
『もいくいく&バスロケ』導入決定！

東北海道広域観光
周遊ルート
「アジアの宝 悠久の
自然美への道
ひがし北・海・道」

※シーニックバイウェイ
等 観光コンテンツとの
連携

観光コンテンツとの連携
スマホでの情報収集



インバウンド向けの観光振興における 根底に潜む重要な課題

- ①インバウンドは、団体旅行から個人旅行(FIT)へ移行
- ②インバウンドは、国際免許取得に制限・冬期の課題
- ③ひがし北海道に呼び込んでも、自由に移動できない
- ③個人旅行(FIT)向けに、二次交通がますます重要
- ④大都市圏の若年層は、既に免許不保持傾向が顕著

公共交通モード同士の連携と 公共交通のアナログとITによる見える化

交通のITによる 見える化



広域観光拠点地区

主要広域観光ルート

広域観光促進地域



主要ゲートウェイ施設

※東北北海道の全ての路線バス会社に『もいくいく&バスロケ』導入決定！



交通のアナログによる見える化

訪日外国人は Wi-Fi



インバウンド向けの観光振興における 顕在化されている課題

①制作物等の外国語の表記

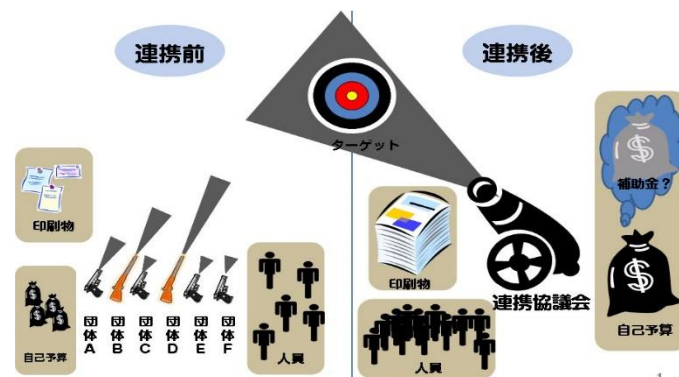
②看板や表示物の連動性と日本語と外国語の併記

③公共交通の駅・停留所・路線の番号制

インバウンド向けの観光振興における 情報発信の課題

①人・もの・金の経営資源の

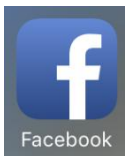
集中と連携



②WEBのフル活用



③SNSでの関係性の深化



2.「世界水準の食と観光」 に向けた ひがし北海道の展望

「世界水準の食と観光」に向けた ひがし北海道の展望

- ①リアルな北海道は「ひがし北海道」
- ②北海道新幹線の札幌延伸による流入人口増
- ③全交通モードが連携して交通充足エリアの創造
- ④全交通モードがアプリにより一つの路線に見える化

国土交通省北海道局・北海道開発局
ひがし北海道価値創造パートナーシップ会議
～ 新たな北海道総合開発計画の推進に向けて ～

第Ⅱ部 「世界のひがし北海道2050」

ご清聴、ありがとうございました

十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾